

【DP（ディプロマ・ポリシー）】

（令和6年度入学生）

物理工学科，物質化学科，地球科学科，数理科学科，知能情報デザイン学科，  
機械・電気電子工学科，建築デザイン学科

・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ，卒業生が身につけるべき資質・能力）

現代の社会においては，新たな知の創出と知の活用によるさらなる科学技術の発展が求められています。一方で，限りある地球を次世代に引き継ぎ，自然と共生する豊かで平等な社会を実現しなければなりません。総合理工学部では，理学，工学の教育・研究を基盤に，従来の枠組みを超えた分野間での有機的な連携を図り，新たな視点に立った理工融合型の教育を推進することにより，専門的知識と総合的視野および主体性をもち，社会の発展に寄与できる能力を身につけた者に学士（総合理工学）を授与します。

・目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）

1. 豊かな教養や倫理観を持ち，人類社会や地球環境とのかかわりについて総合的に考え，判断できる。
2. 情報収集力，判断力，分析力を身につけ，社会に貢献し，活躍できる。
3. コミュニケーション能力，チームワーク力を身につけ，社会に貢献し，活躍できる。
4. 国際的視野を身につけると共に，地域の文化・伝統を理解し，地域あるいは世界に及ぶ課題を，理工学の専門知識を用いて，解決に努め，社会の持続可能な発展に寄与する能力を身につけている。
5. 修得して専門知識・技術をさらに高め，継続して学ぶことで課題を発見し，これらを解決する能力を身につけている。

・DPと特に関わりが深いSDGs17の目標（学士課程を通じた資質・能力の習得が，社会におけるSDGsのゴール達成とどのように関わるか）

1. SDG「3. すべての人に健康と福祉を」

学士（総合理工学）取得者のうち，建築デザイン学科の卒業生は，建築デザインの各種技能や計画，構造または環境分野の様々な技術開発に関する知識を修得しており，人々の健康，快適な暮らしの実現と持続に資する人材として活躍できる基盤を有しています。

2. SDG「4. 質の高い教育をみんなに」

学士（総合理工学）取得者のうち，物理工学科の卒業生は，物理や工学の基礎的知識を理解・修得しており，その知識を礎として理科教員として中学・高校で質の高い教育を広く指導する基盤を有しています。

数理科学科の卒業生は、現代数学の深い知識を幅広く修得しており、社会の事象を数理的に捉え、論理的に表現・処理することで問題を解決する資質・能力を有しています。

### 3. SDG「6. 安全な水とトイレを世界中に」

学士（総合理工学）取得者のうち、物質化学科の卒業生は、地域に根ざした水環境の保全に必要な技術や知識等、公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

### 4. SDG「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

学士（総合理工学）取得者のうち、理工学学科の卒業生は、エネルギーの保存や変換の原理を理解し、クリーンエネルギーの普及を促進する様々な技術開発に関する知識を修得しており、社会で活躍できる基盤を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、物質化学科の卒業生は、高い効率でエネルギー変換や物質合成を行う方法の開拓に必要な技術や知識等、公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、機械・電気電子工学科の卒業生は、機械工学と電気電子工学を修得した人材として、社会インフラの整備・維持や、工業製品の開発を通じて、社会の発展に貢献できる能力を有しています。また、電力工学の技術者として発電や送電に関する業務に従事したり、エネルギー効率が高い機械製品や電気製品の開発に従事したりできる能力を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、物質化学科の卒業生は、新素材の開発に必要な技術や知識等、公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

### 5. SDG「8. 働きがいも経済成長も」

学士（総合理工学）取得者のうち、理工学学科の卒業生は、先進的な技術を開発できる基礎的知識を理解・修得しており、その知識を礎として働き甲斐があり、かつ経済成長も実現できる産業で活躍できる基盤を有しています。

### 6. SDG「9. 産業と技術革新の基盤を作ろう」

学士（総合理工学）取得者のうち、理工学学科の卒業生は、物理学と工学に関する専門的知識を理解・修得しており、その知識を礎として新たな産業と技術革新の基盤を作る素養を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、物質化学科の卒業生は、新素材の開発に必要な技術や知識等、公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、知能情報デザイン学科の卒業生は、革新的な技術の開発に不可欠な要素である、データサイエンス、コンピュータサイエンス、プログラミングなどの能力を修得しています。卒業生は、地元企業を含め、IT、ソフトウェア開発、システムインテグレーター、通信サービス業、電子機器製造業、コンサルティング企業等で活躍できる能力を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、機械・電気電子工学科の卒業者は、機械工学と電気電子工学を修得した人材として、社会インフラの整備・維持や、工業製品の開発を通じて、社会の発展に貢献できる能力を有しています。また、電力工学の技術者として発電や送電に関する業務に従事したり、エネルギー効率が高い機械製品や電気製品の開発に従事したりできる能力を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、建築デザイン学科の卒業者は、環境分野の様々な技術開発に関する知識を修得しており、人々の健康、安全、快適な暮らしの実現と持続に資する人材として活躍できる基盤を有しています。

#### 7. SDG「11. 住みつづけられる街づくりを」

学士（総合理工学）取得者のうち、地球科学科の卒業者は、自然災害のメカニズムや発生予測についての知識を修得しており、安心・安全で持続可能な暮らしに資する公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

学士（総合理工学）取得者のうち、建築デザイン学科の卒業者は、建築デザインの各種技能や計画、構造に関する知識を修得しており、人々の快適な暮らしの実現と持続に資する人材として活躍できる基盤を有しています。

#### 8. SDG「12. つくる責任つかう責任」

学士（総合理工学）取得者のうち物理工学科の卒業者は、技術と社会の関わりを理解しており、その知識を礎としてつくる責任とつかう責任に関して判断し適切に対応できる基盤を有しています。

#### 9. SDG「13. 気候変動に具体的な対策を」

学士（総合理工学）取得者のうち、地球科学科の卒業者は、地質学的スケールの気候変動についての知識を修得しており、安心・安全で持続可能な暮らしに資する公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

#### 10. SDG「14. 海の豊かさを守ろう」、SDG「15. 陸の豊かさを守ろう」

学士（総合理工学）取得者のうち、地球科学科の卒業者は、海域および陸域との接点となる汽水域の環境とその評価に関する知識や調査技法を修得しており、安心・安全で持続可能な暮らしに資する公務や民間企業等で活躍できる基盤を有しています。

### 【DP（ディプロマ・ポリシー）】

（令和7年度以降入学生）

#### ・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、卒業生が身につけるべき資質・能力）

現代の社会においては、新たな総合知の創出とその活用による更なる科学技術の発展が求め

られています。一方で、限りある地球を次世代に引き継ぎ、自然と共生する豊かで平等な社会を実現しなければなりません。総合理工学部は、理学、工学の教育・研究を基盤に、従来の枠組みを超えた分野間の有機的な連携を図り、文理融合と社会実装の視点を取り入れた理工学教育を推進することにより、幅広い視野を持つ高度理工系人材を輩出します。

#### ・目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）

総合理工学部では、学士課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に学位「総合理工学」を授与します。

##### ① 幅広い教養・豊かな人間性・自己理解

文理の枠を超えた幅広い教養の修得や文化・芸術への理解を通じて知的基盤と豊かな人間性を形成し、生涯にわたって主体的に学ぶことができる。

##### ② 情報収集・分析・論理的思考

論理的思考のもとで、さまざまな情報を収集・分析し、課題に応じて表現することができる。

##### ③ コミュニケーション・協働・社会参画

他者と対話しながら、問題解決のために協働し、社会に主体的に参画することができる。

##### ④ グローバル／ローカルなマインドとリテラシー

地球環境・地域環境や異文化・地域性への理解、高度な外国語運用能力をもってグローバル／ローカルな活動に参画できる。

##### ⑤ 課題発見・探究・解決（社会実装）

現代社会の課題を発見・探求し、総合理工学における学修成果・研究成果を活かして新しい視点や発想で解決にあたることができる。

##### ⑥ 価値創造（挑戦性、社会創造）

総合理工学の専門分野に関する確かな基礎力と応用力とを備え、文理の枠を超えた幅広い分野の見識を持ち合わせるとともに、社会のニーズに応じて、修得した専門知識・技術を更に高め、分野を超えて主体的に学び続ける態度を身につけている。

#### ・DP と特に関わりが深い SDGs17 の目標（学士課程を通じた資質・能力の習得が、社会における SDGs のゴール達成とどのように関わるか）

総合理工学部の教育・研究は、SDGs17 の目標 3, 4, 6~9, 11~14 と深く関わっています。特に関わりが深いものの例を以下に示します。

SDG「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、

SDG「11. 住みつつけられる街づくりを」

学士（総合理工学）の取得者は、総合理工学に関する幅広い基礎的知識と、自ら選択した特定の分野における高度な専門知識・技術を活かして、社会の課題を発見・探究し、解決にあたる能力を備えています。産業の創出・発展や安心・安全で持続可能な暮らしの実現に貢献する人材として、民間企業や官公庁等で活躍できる基盤を有しています。

## 【CP（カリキュラム・ポリシー）】

（令和6年度入学生）

物理工学科，物質化学科，地球科学科，数理科学科，知能情報デザイン学科，  
機械・電気電子工学科，建築デザイン学科

### 1. 教育課程の編成方針

（1）総合理工学部では、ディプロマ・ポリシーに述べるような人材を育成するため、以下のよう  
にカリキュラムを編成しています。

体系性：

総合理工学部には、社会の多様なニーズに応えられるよう、以下の7学科、13教育コース  
があり、それぞれのコースに卒業までに修得すべき学修到達目標が定められて人材育成が行  
われます。

学 科	教育コース
物理工学科	基礎物理学コース 電子デバイス工学コース
物質化学科	基礎化学コース 機能材料化学コース
地球科学科	地球物質資源科学コース 地球環境科学コース 自然災害科学コース
数理科学科	数理基幹コース 数理展開コース
知能情報デザイン学科	情報システムデザインコース データサイエンスコース
機械・電気電子工学科	
建築デザイン学科	建築構造・住環境コース 建築計画デザインコース

全ての学科において、教育課程は全学基礎教育と専門教育からなり、以下のように体系的  
に構成されています。

全学基礎教育は、現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために、すべての学  
士課程に所属する学生が共通して学修する教育課程であり、「島大 STEAM 科目群」「ユニバ  
ーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」の4つの科目群に分かれます。この  
うち「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」には必修科目が設定されています。「島大  
STEAM 科目群」では「数理・データサイエンスへの誘い（2単位）」と「情報科学（2単位）」、  
「ユニバーサル科目群」では「英語（6単位）」と「初修外国語（4単位）」、「SDGs 入門（2  
単位）」が必修科目です。このほかに、選択科目として4つの科目群から幅広い分野の授業科  
目を選択履修し、全学CPが定める各科目群の目標への到達を促します。

専門教育では基盤科目として理工学の専門分野に関する基礎力を身につけます。さらに学  
科毎に編成された専門科目群には講義形式の科目の他に、「実験」、「実習」、「演習」の科目が  
数多く設けられており、これらを学修することにより理工学の専門知識、応用力を身につけ

ます。

段階性：

全学基礎教育は主として1，2年次に履修し，専門教育の礎とします。専門教育においては，主として1年次に基盤科目を履修します。各学科の基盤科目には，専門を学ぶための導入科目として，初年次教育科目を設け，高校から大学教育への橋渡しとしています。専門教育科目は基礎的な科目から学年進行に従って発展的な科目を学修するように配置され，3年次以降学科内の希望するコースに分かれて応用力を身につけます。4年次には卒業研究を履修することにより，理工融合的，総合的視野からの分析力，課題解決力，創造力を高めます。

(2) 総合理工学部では，専門分野での学修に加えて，自己のもう一つの成長の可能性を発現させるため，「島根大学クロス教育」の履修を推奨します。「島根大学クロス教育」は，下に掲げる①～⑤の5つのプログラム・カテゴリーがあり，テーマや学問分野の異なる複数の教育プログラムによって構成されています。プログラムごとに修了に必要な単位数が定められています。総合理工学部では卒業までに「島根大学クロス教育」から1プログラム以上含んで学修することを推奨しています。

①テーマ別プログラム (10 単位)

②他学部学問基礎プログラム (10 単位)

③同学部異領域専門プログラム (10 単位)

④アドバンスプログラム (20 単位)

⑤トランスボーダープログラム (30 単位)

(3) 総合理工学部では，SDGs の目標とその達成への理解を促すため，全学基礎教育の「SDGs 入門 (2 単位)」を必修科目として学修します。

物理工学科では，特に専門教育科目の「基礎物理学 A (2 単位)」や「基礎物理学 B (2 単位)」などでの学修を通じて，物理に関する基礎知識を修得することで，SDGs の目標「4. 質の高い教育をみんなに」の達成に資する人材を育成します。あるいは，「電子工学概論 (2 単位)」や「技術と社会 (2 単位)」などでの学修を通じて，技術を作り使うことの倫理を修得することで，SDGs の目標「12. つくる責任つかう責任」の達成に資する人材を育成します。さらに，全ての授業科目において，SDGs の 17 の目標との対応関係をシラバスに記載し，学生の関心に沿った授業選択を促します。

物質化学科では，全ての授業科目において，SDGs の 17 の目標との対応関係をシラバスに記載し，学生の関心に沿った授業選択を促します。例えば，専門教育科目の「環境化学 (2 単位)」での学修を通じて，地域の水環境の調査や保全方法に関する知識を修得することで，SDGs の目標「6. 安全な水とトイレを世界中に」の達成に資する人材を育成します。

地球科学科では、特に専門教育科目の「自然災害学（2単位）」や「地質学と社会（1単位）」での学修を通じて、自然災害とその素因となる地質学的背景についての知識や調査技法を修得することで、SDGsの目標「11. 住み続けられるまちづくりを」の達成に資する人材を育成します。さらに、全ての授業科目において、SDGsの17の目標との対応関係をシラバスに記載し、学生の関心に沿った授業選択を促します。

数理科学科では、基礎的な数学科目である集合論、微分積分学、線形代数学、統計学の学修を通じ、SDGsの17の目標に関係する諸問題を科学的に解決できる人材を育成します。また、専門教育科目の「数理科学入門セミナー（2単位）」や「数学輪講（2単位）」での学修を通じて、現代数学の深い知識を幅広く修得し、「数学国際セミナー（2単位）」での学修を通じて、国際的な視野を養うことで、SDGsの目標「4. 質の高い教育をみんなに」や「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に資する人材を育成します。

知能情報デザイン学科では、SDGsの目標とその達成への理解を促すため、全学基礎教育の「情報科学（2単位）」を必修科目として学修します。また、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に資するべく、特に専門科目（必修）の「システム創成プロジェクトA（4単位）」「同B（6単位）」においてIT技術を地域の企業と共同のPBL授業で実践し、さらに、専門科目（必修及び選択）に、産業界で広く応用されているIT技術であるデータサイエンス、計算機科学、プログラミング、ネットワーク、セキュリティに関する科目を厚く配置することで、産業界においてIT技術によりイノベーションを実現する人材を育成します。

機械・電気電子工学科では、基盤科目の「機械工学概論（2単位）」、「電気電子工学概論（2単位）」、機械工学と電気電子工学の各分野の多くの専門教育科目、および、専門教育科目「技術と社会（2単位）」を学修します。このことを通じて、機械工学と電気電子工学を修得し、かつ、それらの社会の中での役割を理解したうえで、社会インフラの整備・維持や、工業製品の開発に携わり、SDGsの目標「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に資する人材を育成します。また、専門教育科目「電気システム（2単位）」、「回路理論Ⅰ（2単位）」、「回路理論Ⅱ（2単位）」の学修を通じて、電力工学の基礎を学び、SDGsの目標「7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに」の達成に資する人材を育成します。さらに、全ての授業科目において、SDGsの17の目標との対応関係をシラバスに記載し、学生の関心に沿った授業選択を促します。

建築デザイン学科では、SDGsの目標とその達成への理解を促すため、全学基礎教育の「SDGs入門（2単位）」を必修科目として学修します。また、専門教育科目の「建築計画（2単位）」、「住環境基礎（2単位）」や「建築材料学（2単位）」、「製図基礎演習（2単位）」他多数の授業科目の学修を通じて、人々の健康、安全、快適な暮らしを実現・持続するための建築デザインの基盤を修得します。当学科では、これらの過程を通して、SDGsの目標「3. すべての人に健康と福祉を」、「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11. 住み続けられる

まちづくりを」の達成に資する人材を育成します。さらに、全ての授業科目において、SDGsの17の目標との対応関係をシラバスに記載し、学生の関心に沿った授業選択を促します。

## 2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

- (1) 専門教育科目には、講義形式（座学）の科目の他に、「実験」、「実習」、「演習」の科目を数多く設けています。実験装置、器具や薬品の扱いに習熟し、フィールドワークを行い、演習問題に取り組むことにより、実践力を養います。これらの科目にはグループで行う内容も多く含まれており、パートナーシップで目標を達成するチームワーク力を身につけます。また、反転授業やその他の能動的授業の推進や大学院生によるTA制度を充実させることで、主体的に学ぶ態度が身につくように工夫されています。
- (2) 4年次に、「卒業研究」または「卒業論文」を必修科目として設けます。専門知識・技能の集大成とともに、大学において修得した知識・課題解決能力・コミュニケーション能力を最大限に発揮できるように教員の個別指導に基づき専門分野の研究を行います。指導教員によるチューター制度、大学院学生によるメンター制度を利用し、学生自らが課題を持って、計画的に科目を履修し、継続し学習することで、卒業時に各学科教育コースの教育到達目標を達成できるよう支援を行います。
- (3) 専門教育科目の中に、「理工学PBL実習A,B」、「海外就業体験」等を設け、企業へのインターンシップ制度を利用してのキャリア教育を受ける機会を多く設けて、つくる責任やつかう責任への意識を醸成します。「理工学PBL実習A,B」では、4名程度のチーム・グループをつくり、山陰地域を中心とする企業の方の指導のもと実践的な課題に取り組むことにより、住み続けられるまちづくりを目標の一つに掲げ、課題設定、問題解決、マネジメントの能力を育成します。「海外就業体験」では、海外の企業等で実地経験を積むことにより、文化や価値観の違いを体感し、国際的視野を養うことを目的としています。また、国際センターと協力し、海外の協定大学などとの交流の推進も図ります。
- (4) 教育職員免許状（中学・高等学校の一種免許状—数学，理科，情報，工業），修習技術者（技術士の資格のための一次試験免除），学芸員，建築士の受験資格など，各学科教育コースにより様々な資格取得が可能です。また，大学教育センターと連携して，就職活動を支援します。

## 3. 学修成果の評価の方針

- (1) カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果は、シラバスに記載された基準に基づき、試験、レポート、授業中の活動への参加状況等により総合的に評価します。
- (2) 卒業研究・卒業論文の成果は、各学科での卒業研究発表会あるいは卒業論文において発表され、単位認定のための審査は、複数の教員により厳正に行われます。

- (3) ディプロマ・ポリシーに掲げる教育成果の達成状況は、GPA や各学科・コースで定められた卒業要件単位の修得状況により判断します。

## 【CP (カリキュラム・ポリシー)】

(令和7年度以降入学生)

### 1. 教育課程の編成方針

総合理工学部 DP が定める (DP①) 幅広い教養・豊かな人間性・自己理解, (DP②) 情報収集・分析・論理的思考, (DP③) コミュニケーション・協働・社会参画, (DP④) グローバル/ローカルなマインドとリテラシー, (DP⑤) 課題発見・探究・解決 (社会実装), (DP⑥) 価値創造 (挑戦性, 社会創造) の6つの資質・能力を涵養するため, 下のように教育課程を編成する。

#### ① 全学基礎教育 (※特に関係のあるDP: ①②④)

現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために, すべての学士課程に所属する学生は「全学基礎教育」を履修する。全学基礎教育は, 下の4つの科目群からなり, それぞれの学修目標とする資質・能力に関連する授業科目によって構成される。

#### ㊸島大 STEAM 科目群: 現代社会の求める新たなリテラシーを身につける「島大 STEAM 科目群」

では, 現代社会の課題を思考し, 将来に向けた創造的な解決策を導き出す方法の修得を目指す。具体的には, 数理・データサイエンスの知識・技能や, 情報を読み解く批判的思考力, 創造的解を導くデザイン力, 新たな価値の創造に挑戦するアントレプレナーシップの涵養を目標とした授業科目を開設する。必修科目として「数理・データサイエンスへの誘い」と「情報科学」がある。

#### ㊹ユニバーサル科目群: 国際社会で必要とされる基礎的知識・技能と地球規模の視野を身につける「ユニバーサル科目群」では, 国際社会で主体的に活動するための高度な外国語運用能力や, 地球規模の問題を捉えるための視野, 多様性を尊重し国際関係や異文化を理解して他者と対話できる能力を涵養することを目標とした授業科目を開設する。必修科目として「英語 (I, II 等)」と「初修外国語 (中国語, フランス語等)」, 「SDGs 入門」がある。

#### ㊺地域創生科目群: 山陰地方の地域の問題解決に資する能力・資質を身につける「地域創生科目群」では, 山陰地方の自然環境・人間社会への理解を深め, その課題発見・問題解決能力を向上させること, 問題解決にあたって他者と協働するためのコミュニケーション力を涵養することを目標とした授業科目を開設する。

#### ㊻教養育成科目群: 豊かな人生の基盤となる幅広い教養を自己の興味・関心に応じて身につける「教養育成科目群」では, 自然・人間社会と多様な学問分野との関わりに対する理解を獲得すること, 自己の身体・精神を生涯にわたって向上させる意志を育むこと, 市民社会の主権者としての基礎的素養を身につけることを目標とした授業科目を開設する。

#### ② 島大クロス教育 (※特に関係のあるDP: ③⑤)

学修者本位の柔軟な教育システムの下での自己調整型学修により、自己のもう一つの成長の可能性を発現させるため、「島大クロス教育」を選択履修する。島大クロス教育は下の①から⑥の5つの教育プログラムカテゴリからなり、自己が定める成長の方向性や興味・関心に応じて、学生自身が主体的に教育プログラムや授業科目を選択する。

- ①テーマ別プログラム (10 単位)：特定の学問分野にかかわらず、現代社会の諸課題に関連したテーマを深く学ぶプログラムから選択して履修する。
- ②他学部学問基礎プログラム (10 単位)：総合理工学部以外の学問分野の基礎的な知識の習得や、各学問分野と社会とのかかわり、当該分野固有のものの見方・考え方等を学修する教育プログラムを選択して履修する。
- ③同学部異領域専門プログラム (10 単位)：主として学ぶ分野とは異なる理工系分野について、当該分野の重要なトピックを網羅的に学ぶとともに、実例なども交えながら、専門的な事項やその重要性を学修する教育プログラムを選択して履修する。
- ④アドバンストプログラム (20 単位)：①～③のうち2つのプログラムを履修するか、または、いずれか1つのプログラムに加えて10単位の学びを主体的に設計して履修する。
- ⑤トランスボーダープログラム (30 単位)：④に加えて、地域課題探究力、コーディネーション力、グローバル展開力などトランスボーダーな探究力を身につけるプロジェクト型の教育プログラム (10 単位) を履修する。

### ③ 専門教育 (※特に関係のあるDP：①②⑤⑥)

専門教育では、学問分野ごとの知の獲得だけでなく、全学基礎教育やクロス教育での学びもふまえて、獲得した専門知を社会実装や社会変革に活かすこと、分野の枠を超えて未知の領域に挑戦し続けることができるようになることを目指す。

総合理工学を学ぶための基礎的な知識を身につけ、総合理工学の幅広い専門分野に対する興味と学修意欲を涵養するため、理工共通基礎科目を開設する。理工共通基礎科目には、総合理工学を学ぶ基礎学力を身につけるため、データサイエンスのための微積分Ⅰ、データサイエンスのための線形代数Ⅰ、及び基礎プログラミング、また幅広い基礎理数学を開設する。また、理工学分野の外国語能力を身につけ、グローバルに活躍できる人材を養成するため、理工学英語を開設する。加えて、総合理工学の幅広い専門分野に対する興味と学修意欲を涵養するため、総合理工学部の多様な専門分野を幅広く学ぶフレッシュマンセミナーⅠ、Ⅱを開設する。

現代社会の課題を発見・探求し、修得した知識を活かして新しい視点や発想で解決にあたることができる能力を涵養するため、理工社会実装教育科目を開設する。社会実装セミナーⅠ～Ⅳを開設し、社会実装セミナーⅠでは、総合理工学分野の研究の社会や産業とのつながり、SDGsとの関連について学生同士で議論し、大学の研究の社会実装について考える力を育む。社会実装セミナーⅡでは、理工系学生に必要な知財戦略や経営論などの文理融合科目を開設する。社会実装セミナーⅢでは、新たな事業の創造やリスクの理解と挑戦の姿勢などを、企業経営者などと協働した授業やインターンシップ等により学ぶ、アントレプレナーシップ教育を行う。

主体的・意欲的に自らの学びを選択し、特定の分野に対する高度な専門知識を持ちながら、幅広い専門分野における素養を兼ね備えることを目的として、専門人材教育科目を開設する。専門

人材教育科目では、目指すべき人材像に応じて選択する選択科目をおき、学生は主体的に自らの学びを設計できるものとする。学生の履修選択のガイドラインとするため、選択科目は基礎科目と発展科目に分類する。目指すべき人材像を更に具体化した上で、それを目指すための「標準履修モデル」を複数設定し、学生はそれを参考として体系的な単位修得を可能とすることで、高度専門人材育成・社会実装教育に繋がる教育を行う。専門人材教育科目では、座学、実験実習をバランスよく配置するとともに、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生の主体性が発揮される機会をつくる。

人材像主導の社会実装教育の集大成として、学んだ知識を駆使して既存の専門分野の枠組みを超えた先端的な領域に挑戦し続け、新たな価値の創造に向かうことができる能力を涵養するため、社会実装セミナーⅣ（卒業研究。卒業研究を選択しない学生には、長期企業インターンシップや海外留学などを通じて、卒業研究と同等の教育を実施）を行う。ここでは人材像を明瞭に意識した研究テーマの設定がなされるとともに、既存の学問分野にとらわれることなくより広い視点での研究指導を行うために、卒業研究を主として指導する分野内の主担当教員の他に、異分野を含む副担当教員を加えた複数名での指導体制を原則とする。

## 2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

- ①学生自身が入学までに培った探究心や探究力（学びのタネ）を活かして学修できるよう、特に全学基礎教育やクロス教育においては、必修科目等を除いて可能な限り授業科目や教育プログラムを主体的に選択できるようにする。
- ②学修方法としてアクティブラーニングを重視し、他者との協働学修やフィールドを活かした体験学修、プロジェクトベースの学修など学生の主体性が発揮される機会をつくる。
- ③教室での面接授業だけでなく、必要に応じて遠隔授業（オンデマンド型等）も組み合わせた学修方法を用い、知識の習得・定着を促す。また、すぐには訪れることが困難な遠隔地（他地域・海外）等と結んだ同時双方向型の遠隔授業も、カリキュラム上の必要に応じて実施する。

## 3. 学修成果の評価の方針

- ①授業の成績評価は「成績の評価に関する取扱要項」にしたがい、試験等の成績に平常成績及び修学状況等を考慮し、到達目標の達成度に準じて評価を行う。評価方法については、到達目標との対応関係や評価の割合等とともに、各授業科目のシラバスに明示する。また、複数の観点から評価を行う多面的評価を重視する。
- ②学生自身の学修過程（学修目標や学修成果等）を学修ポートフォリオに記録して蓄積し、個々の学生の成長を評価して学修指導に活かす。
- ③成績評価について疑義があるときは、全学基礎教育科目や全学的に開講される教職科目については「成績の評価に関する取扱要項」にしたがって、専門教育科目については各学部で定められた手続きにしたがって、不服申し立てをおこなうことができる。

---

## 【AP（アドミッション・ポリシー）】

（令和7年度，令和8年度入学生）

### ■総合理工学科

#### ●求める学生像

総合理工学部総合理工学科では，次のような学生を受け入れます。

1. 大学での学びに必要な高等学校段階での基礎的学力を有する人
2. 自然科学とその応用分野に対する強い知的好奇心を持つとともに，文理を超えた幅広い学術・文化への興味と学修意欲を合わせ持つ人
3. 地域や世界の諸課題に興味を持ち，学んだ知識・技能を活かしてそれらに積極的に関わろうとする人
4. 他者との相互理解を大事にしながら，深い思考のもと，自分の意見や着想をわかりやすく表現しようとする人

#### ●入学者選抜の基本方針

##### 一般選抜（前期日程）

###### 【基礎的知識と思考力を重視】

大学入学共通テスト及び個別学力試験（筆記）により，高等学校における基礎学力や思考力を十分に備えているかを評価します。

##### 一般選抜（後期日程）

###### 【基礎的知識と思考力・表現力を重視】

大学入学共通テスト及び面接により，高等学校における基礎学力を十分に備えているか，また思考した結果を論理的に表現する力を備えているかを評価します。

##### 総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の3要素（知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を総合的に評価します。

##### 総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の3要素を総合的に評価します。さらに，「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域課題への興味・関心进行评估します。

## 総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）専門高校入試

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。さらに、「口頭試問」により専門分野に関する基本知識・熱意・適性を、「専門学科における資格取得」等により、専門学科での実績を評価します。

## 総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。なお、別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし、「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い、英語の活用能力を評価します。

## 学校推薦型選抜Ⅱ

大学入学共通テスト（「数学」、「理科」、「情報」）及び面接によって、数学、理科及び情報の高等学校における基礎知識を十分に備えているか、また、将来、女性研究者や技術者等として理工系分野の発展に貢献したいという意欲及び適性について評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識 技能	読解力 思考力 表現力	協調性 協働性	知的好奇心 探究心	地域への 興味・関心	専門学科に 関する能力	英語能力	
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○						
	後期日程	個別学力試験	◎	○						
		大学入学共通テスト 面接	◎	○	○	○				
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型	「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎				
		読解・表現力試験		◎						
		志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
	地域志向入試	「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎				
		読解・表現力試験		◎						
		志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
		地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					◎			
	へるん特定型	専門高校入試	「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎			
			読解・表現力試験		◎					
		グローバル英語入試	志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎			
			専門学科に関する口頭試問等							◎※
	学校推薦型選抜Ⅱ	へるん一般型	「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎			
読解・表現力試験				◎						
グローバル英語入試		志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
		グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」							◎	
学校推薦型選抜Ⅱ	へるん特定型	英語資格・検定試験							◎	
		大学入学共通テスト	◎			◎				
	面接 調査書及び志望理由書	★	★	★	★					

※「へるん特定型 専門高校入試」の数理データサイエンス・IT・デジタル分野では、口頭試問に加え専門学科に関する資格を評価します。

★：参考とするもの

**【AP（アドミッション・ポリシー）】**  
**（令和9年度以降入学生）**

■**総合理工学科**

●**求める学生像**

総合理工学部総合理工学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 大学での学びに必要な高等学校段階での基礎的学力を有する人
2. 自然科学とその応用分野に対する強い知的好奇心を持つとともに、文理を超えた幅広い学術・文化への興味と学修意欲を合わせ持つ人
3. 地域や世界の諸課題に興味を持ち、学んだ知識・技能を活かしてそれらに積極的に関わろうとする人
4. 他者との相互理解を大事にしながら、深い思考のもと、自分の意見や着想をわかりやすく表現しようとする人

●**入学者選抜の基本方針**

一般選抜（前期日程）

**【基礎的知識と思考力を重視】**

大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト（筆記）により、高等学校における基礎学力や思考力を十分に備えているかを評価します。

一般選抜（後期日程）

**【基礎的知識と思考力・表現力を重視】**

大学入学共通テスト及び面接により、高等学校における基礎学力を十分に備えているか、また思考した結果を論理的に表現する力を備えているかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。さらに、「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い、地域課題への興味・関心进行评估します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）専門高校入試

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」

を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。さらに、「口頭試問」により専門分野に関する基本知識・熱意・適性を、「専門学科における資格取得」等により、専門学科での実績を評価します。

### 総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。なお、別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし、「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い、英語の活用能力を評価します。

### 学校推薦型選抜Ⅱ

大学入学共通テスト（「数学」、「理科」、「情報」）及び面接によって、数学、理科及び情報の高等学校における基礎知識を十分に備えているか、また、将来、女性研究者や技術者等として理工系分野の発展に貢献したいという意欲及び適性について評価します。

### ●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識 技能	読解力 思考力 表現力	協調性 協働性	知的好奇心 探究心	地域への 興味・関心	専門学科に 関する能力	英語能力	
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト 教科・科目に係る個別テスト	◎ ◎	○ ○						
	後期日程	大学入学共通テスト 面接	◎	○ ◎	○	○				
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型	「調査書」、「活動報告書」 及び「クローズアップシート」 読解・表現力試験	◎	◎	◎	◎				
		志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
		「調査書」、「活動報告書」 及び「クローズアップシート」 読解・表現力試験	◎	◎	◎	◎				
	地域志向 入試	志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
		地域志向レポートに基づいた 「地域志向面接」					◎			
		「調査書」、「活動報告書」 及び「クローズアップシート」 読解・表現力試験	◎	◎	◎	◎				
	へるん特定型 専門高校 入試	志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
		専門教科に関する口頭試問等							◎※	
		「調査書」、「活動報告書」 及び「クローズアップシート」 読解・表現力試験	◎	◎	◎	◎				
	グローバル 英語入試	志望理由書を用いた「面接」	◎	◎	○	◎				
		グローバル英語入試志望理由書 に基づいた「英語面接」							◎	
		英語資格・検定試験							◎	
学校推薦型選抜Ⅱ	大学入学共通テスト	◎								
	面接			◎	○	◎				
	調査書及び志望理由書	★	★	★	★					

※「へるん特定型 専門高校入試」の数理データサイエンス・IT・デジタル分野では、口頭試問に加え専門教科に関する資格を評価します。

★：参考とするもの